

開講科目名	環境NPO実践論		
担当教員	萩原 喜之	開講区分	単位数
		前期	2単位

### 授業のテーマと到達目標

テーマ：人類が直面してしまった大きな壁、「持続不可能性」について様々なアプローチが始まったが、その中で環境NPOの担う役割と可能性について探してみたい。

目標：を知る、理解するのではなく、行動にいかに移していけるかという段階をめざしたい。

持続可能な社会（=環境）をめざすNPO（民間非営利組織）が、社会の課題解決に向けてどのように社会にアプローチしてきたのか、講師自らの活動体験を事例とし、さらなる方向性を共に考えていく。そして、そのことを通して、自らが社会の当事者となっていくこと（=今後の自らの生き方）を模索する。

ESDサブコースという側面がある（人は自らをどのように変えられるか?）。

大学の授業の限界突破への挑戦。新たな授業スタイルを学生とともに創り上げる実証実験（今年で5年目）。

社会の現場において、問いも答えもひとつではない。  
（大学はひとつの答えの導き方をすることが多いので）

脱受け身。自ら考えることを要求される授業。ワークショップ・ディスカッションが多い。

脱良い子。良くも悪くも神大生は良い子。

基本2コマセットで構成していく。1限目でテーマについて提示。それを受けて、次の授業でディスカッションとなる。その間に自らの問いを深めてもらうためにレポート提出がある。

自らを見つめる。自らの将来を“くらし・かせぎ・つとめ”の視点で探る。

### 授業の概要と計画

- 第1回：オリエンテーション（この授業のめざすものとは。石川・萩原）
- 第2回：W.S.ディスカッション（この授業のめざすものについて）
- 第3回：NPOとはどんな組織か
- 第4回：W.S.ディスカッション（NPOとはどんな組織か）
- 第5回：持続可能性の深部を探る
- 第6回：W.S.ディスカッション（持続可能性の深部を探る）
- 第7回：エネルギー 中部電力とどのように向き合ってきたか（HP）
- 第8回：W.S.ディスカッション（中部電力とどのように向き合ってきたか）
- 第9回：エネルギー 3.11以後、中部エネルギー市民会議（HP）
- 第10回：W.S.ディスカッション（3.11以後、中部エネルギー市民会議）
- 第11回：ネパールの首都カトマンドゥにおけるバグマティ川の再生（HP）  
（途上国の都市問題）
- 第12回：W.S.ディスカッション（ネパールの首都カトマンドゥにおけるバグマティ川の再生）
- 第13回：自らと向き合う（ITIME）
- 第14回：W.S.ディスカッション（自らと向き合う）
- 第15回：全体討論・ふりかえり

### 成績評価と基準

レポート評価100%（ただし、出席日数50%以上を目安に入れる）  
テーマ全講義を通して得たもの、感じたこと（知ったことではなく）を記述。

### 履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

私はNPOの現場の人間です。大学の専任講師ではありません。体験は伝えられますが、知識を教えるつもりはありません。

各テーマへの予習と提示されたテーマについて次の授業のディスカッションの間にレポートの提出が必要となります。

### オフィスアワー・連絡先

萩原喜之 hagiwara es-net.jp  
@

### 学生へのメッセージ

将来、環境を自分の仕事、ライフワークを考えている人の受講を希望します。また、NPO・NGOに関心のある方も大歓迎です。

「NPOの生産物は人である」のように、受講生のモチベーションアップを目的とします。

『「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要でない。』というレーチェル・カーソンの言葉のように、講義を通し、なにをどのように感じたのかを重要視します。（人は知るだけでは行動を起こさないから）

授業に際しては双方向のコミュニケーションを重視します。講師 受講者という関係ではなく、受講生の多様な意見を尊重し、相互に評価できるよう心がけます。

従来の授業形態とはかなり違ったものです。

ともに授業を創り上げる、意欲、積極性が必要です。

## 今年度の工夫

## 教科書

オリエンテーションにて紹介をします。必要と思われた方のみ購入してください。

## 参考書・参考資料等

下記以外の参考URL  
NPO法人 地域の未来・志援センター：<http://www.c-mirai.org/>  
豊森実行委員会：<http://www.toyomori.org/>

## 授業における使用言語

## キーワード